

## 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成 29 年 1 月 27 日（金）

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

【会場】掛川市文化会館 シオーネ

### 1 出席者

- ・ 発言者 掛川市において様々な分野で活躍されている方  
6 名（男性 3 名、女性 3 名）
- ・ 傍聴者 150 人

### 2 発言意見

番号	分野・所属	項 目	頁
発言者 1	地域防災	地域防災力強化のために	3
2	地域活動	古紙等の資源で子どもたちの支援を	5
3	生涯学習	人と人のつながり	9
4	子育て	「ITTA」の活動を通して	13
5	茶業	日本一の深蒸し茶をつくるために	19
6	観光	観光は市民 1 人 1 人のためにある	22
傍聴者 1	—	災害時の浜岡原発が心配	30
傍聴者 2	—	子どもの足腰強化	31
傍聴者 3	—	東大谷、産業廃棄物処理場計画反対	31

**【川勝知事】**

皆様、こんにちは。今日は知事広聴「平太さんと語ろう」の会に、たくさんの方にお越しいただいて、大変うれしゅうございます。

今日、こちらに来る前に立派な図書館がございまして、そこに松本亀次郎先生の展示があるということで、そこを見てまいりまして、また、こちらは遠州国学の盛んであったところだということも、その場で知りました。来る途中に、吉岡彌生先生の記念館が見えたんですが、今度ぜひそこも見学して、いろいろ勉強させていただきたいと思っておりますが、本当に優れた人物を輩出したところであるということを改めて実感しているところでございます。

また今日は花の会の皆様方、国際的なレベルであるということをよく承知しております。それから皆様と御一緒に食事をさせていただいたんですけれども、とうもんの会の皆様方が心を込めてつくっていただいた食事を堪能させていただきました。このとうもんの会もいわば有名といいますか、全国的にトップクラスで、女性の方たちの力で里の場の力を発揮させてくださっているということですね。

それから、つま恋を皆さん心配されたわけですが、すばらしい継承者が出まして、4月の下旬にはオープンするというので、これも御同慶の至りでございます。

この広聴会というのは、私がものを述べるということではなくて、市のトップクラスのリーダーの方たちのお話を承って、それをこの掛川市、あるいは県政のために役立てるためのこの会でございます。言いつ放しに終わる可能性があると思われる方がいるかもしれませんが、それは違います。

今日は、意思決定できる者が来ています。すべてお聞きしたことは、この場でお答えできることはこの場でお答えして、実行しますと。持ち帰らなくてはいけないことがままありますので、その場合にはそれを持ち帰って、必ずお返事申し上げて、しっかりとこれを言いつ放しにしていかなないようにするというのでございます。

今日は男女3人ずつすばらしい方がいろいろと話をしてくださる。2時間弱ではございますけれども、皆様方とともにこの会が、この掛川市、並びに県政の発展に役に立つということを祈念いたしまして、御礼の挨拶といたします。本日はどうもありがとうございます。よろしく申し上げます。

**【発言者1】**

掛川市の上西郷在住の発言者1と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。被災地

支援を行う「ふっこう支援掛川」という団体で活動しております。

今日は防災というくくりの中で3点についてお話をさせていただきたいと思います。

まず1点目は自治会の女性役員の登用について、そして2点目は被災地支援で学んだこと、3点目は地域間交流の必要性を防災の視点から御提案させていただきたいと思います。

では最初に、自治会の女性役員の登用についてということでお話をさせていただきます。私の住む地域は掛川市の北部で、非常にのどかな田園風景が広がっております。自治会は構江区、構えるという字に江戸の江で「構江（かまえ）」と言います。徳川二代将軍秀忠公の生母である西郷局の生誕地とも言われております。公民館内には記念の碑が建てられています。6世紀ごろの平塚古墳というのも今現存しております、朝晩この古墳の丘を見て過ごしているような次第です。

10年ほど前までは本当に仕事一筋で、自治会というものは全く関わっていなかったんですが、平成17年に自治会の役員として区で女性で初めて就任をすることになりました。幸い大きな災害もその間なく、無事3年間の役員も終わりました、次の女性役員の登用の仕組みもつくりまして、規約に女性役員の登用を明文化しました。その後、毎回女性役員を選出しまして、今は6代目の立派な女性の区長さんが活躍しています。

市内の自治会の女性の役員さんに会って多くのお話を伺いましたが、女性でも皆さんでできるよという回答が返ってくる事が多く、また「やってよかったよ」「ためになった」という意見も多数です。最初は男性でも皆さん未経験で、お互いに尊敬して、手を取り合って地域貢献していくという喜びを一人でも多くの方に経験をしていただきたい、そう思っております。

また、災害時というのは、自治会の采配が受援力の強弱を左右します。自治会の役員は権限が集中して、その責任も大変重く、多忙な立場ではありますが、大変ですが、普段から自治会に女性役員を登用して、男女が協力し合う仕組みが非常に重要であるかと思っております。

次に2点目としまして、被災地支援から学んだことのお話ということをお話をさせていただきます。被災地支援をしているという立場から、昨今の県内の津波浸水区域に医療施設を建設するという事で、このことについて少しお話をしたいと思っております。

東日本大震災で支援した陸前高田市に市が指定した避難所で市立体育館というものがありました。そこへ津波で避難した人たちは約100名と言われております。津波は天井まで達して、かろうじて天井の梁にぶら下がって助かったのがたったの3名だったということ

です。避難所は海から1キロしか離れておりませんでした。発災後の陸前高田の市長は、私どものインタビューで、「想定外であった、避難所に指定したことの責任を重く受け止めている」とおっしゃっていました。

また、内海で起きた宮城県気仙沼市の津波火災は、海を渡って南部の陸地の大島まで到達して延焼しました。原因は気仙沼漁港の燃料の備蓄タンクなどが津波で延焼したためと言われております。比較的大きな港には燃料タンクなどの危険物が設置されていることが多いことも非常に懸念されます。

喉元過ぎれば熱さ忘れるという言葉がありますが、時間の経過とともに、また同じような悲劇が繰り返されるのは本当に、非常に残念なことです。危ないところには、とにかく近づかない、とにかく逃げる、避難方法の基本中の基本だと思われま

す。3点目に、地域間交流の必要性ということで、最後御提案したいことがあります。掛川市は今から11年前に旧掛川市と大東町、それから大須賀町が合併しました。南北に長い、海と平地と山を持った地域です。現状からは、合併しない方がよかったとか、何だか吸収されちゃったような感じということで、いまだに合併の利点が得られていないという声も聞きます。掛川市でも想定される南海トラフの巨大地震などの場合は、恐らく広範囲にわたる被害から、すぐにいろんなところからの支援が来ないということも予測されます。

話は変わりますが、私たちが災害ボランティア活動に出かける際、まず宿泊場所と物資の調達ということが大きな課題になります。東日本大震災でも、多くのボランティアさんとともにバスで出発して、幸いにも岩手県遠野市が宿舎を提供してくれました。遠野市の市長さんが震災より以前に沿岸部での被害を想定し、あらかじめ活動拠点の確保や公民館を宿舎として貸し出しができるように後方支援体制が既にでき上がっていました。

私たちは鹿込区という自治会の公民館に泊まらせていただきましたが、役員の方も非常によくしていただき、本当に助かりました。また、遠野市は被害も少なく、スーパーやコンビニなども通常どおり営業しておりましたので、食材や物資の調達にも困ることもありませんでした。

このように同じ県内でも被害の多いところ、少ないところがあり、先ほどの遠野市のように、もし海側で被害があったら、陸側の人たちが支援をする、それには普段からの交流がとても大切です。本当の意味での合併のメリットをもう一度再確認し、災害時、お互いが協力し合える掛川市になればと強く願っています。県内でも海のない小山町や藤枝市がそういった後方支援体制を築いていると伺っております。

県内でも平太さん、どうか掛川市へのまた御支援、御協力をお願い申し上げます。私の話は以上でございます。ありがとうございます。

【発言者2】

発言者2です。よろしくお願いします。

私、今発言者1さんがおっしゃった掛川の北の方の西郷というところで、同じ地区に住んでいます。西郷小学校という学区で活動をしています。NPO法人WAKUWAKU西郷という名前で活動をさせていただいています。今日はそのお話を、何でそういう活動を始めたかということをお話しさせていただきたいと思います。

今から12年から13年くらい前、いろんな県外、県内問わず、不審者が出たり、学校に何か子どもに害を及ぼすような事件が多発しまして、これは何とかしなきゃということで、学校の門を閉めることとか、地域のボランティアさんがパトロールするとか、そういう事態になりました。

ちょうどそのころ、私がPTAの会長をやっている、私が子どものころは、門なんて開けっ放しだし、家の鍵も閉めたことがないような状況があったものですから、これは何かおかしいぞと、門を閉めなきゃいけない、近所の人に挨拶をするのもままならなくなってきた時代だったものですから、何とか地域と子どもたちをつなげる方法はないかなということで、いつも考えていました。

そこでPTAの役員だったものですから、PTAの活動の中で、廊下から廊下、ずっと130mほどの長海苔巻きをつくったり、あとは餅つきをやったり、餅投げをやったり、大きなお鍋で豚汁をつくったり、地域の方と一緒に取り組みをやってきました。確かにそのイベントについてはものすごい盛況で、子どもも大人も地域の方も喜んだんですけども、やはりそれは一時しのぎであって、なかなか続かないんですね。

これを何とかしなきゃいけないなとずっと思っていましたら、中学校の恩師が、西郷の村の桜木という地域でエコロジーアクション桜が丘の会というNPOを立ち上げていて、その活動が、地元や企業やいろんなところで出てくる古紙ですね、紙を集めて、その収益金で桜が丘中学校に太陽光発電を設置したというお話を聞きました。

まさに自分が思っていた活動ですね。地域の方が子どもたちのために汗を流して、長い期間かけてそれを達成すると、そういう姿を地域の方も子どもたちにも見せていけたらなということで、このWAKUWAKU西郷というものを立ち上げました。

地域の方も、最初発足した当時のメンバーも、快く引き受けてくれまして、とても順調

に進みました。発足して1年で西郷小学校に太陽光発電を設置することができました。県や国の機関の方の御支援ももちろんありました。本当にありがたいと思っています。

それでNPO法人WAKUWAKU西郷が始まりまして、太陽光発電も設置しました。おかげさまで当時は古紙の値段も高かったものですから、3年ほどで借金も返済し、その後何をやるかということで、やはり地域の方への恩返しをしなければいけないということで、地域の街灯をLEDに交換したり、小学校の環境活動、あとは子どもたちと一緒にアサガオで緑のカーテンをつくったりと、そういった環境活動を進めてまいりました。

あとはちょうど時期的に5年ほど前から東北の被災地へと一緒に出向いたりという活動も並行して行ってきました。

西郷地域の古紙もかなり増えてきたんですけれども、西郷以外の近隣の地域の方、それから企業の方からの御支援も多くなってきたものですから、これは西郷地域にとどまらずに、もっと広い範囲で恩返しをしなければいけないなというふうに考え始めまして、市内全域で活動をするようになってきました。

まず私たちが古紙を集めている中で、とっても真新しい絵本がたくさん入っていました。この絵本をそのまま古紙として出してしまうのではもったいないなということで、その絵本を集めて、またその絵本が必要な若いお母さんとか、そういう方に分けてあげようということで、わくわく文庫というものを始めました。これは、今掛川に3つ図書館がありますけれども、掛川の中央、大東、大須賀、それから近隣のお寺の協力、あと交流センターだとか、30カ所くらいの御協力を得て、黄色いコンテナを目印に絵本のリユースというんですかね、それを始めました。

あと最近では掛川あすなろ応援団というものも始めまして、ある協力を約束した事業者さんからいただいた古紙のお金を小中学校のICT支援に向ける活動を始めました。始めて1年ですけれども、昨年6月、この掛川の大浜中学校にICTの機器、電子黒板2台と書画カメラを2台設置することができました。

この活動は一般の市民の皆さんも協力できる内容になっています。あすなろ応援団に協力したいという気持ちを持っていただければ、小中学校のICTの活動に生かしていきたいと思っています。

それで、せっかく来ていただいている皆さんにお願いですけれども、恐らく皆さんのお宅で出る紙とか新聞とかダンボールというものは、自宅では不用になったものだと思います。ですので、捨てるという感覚だと思うんですけれども、私たちはそれを新たな資源と

して活用をしています。ぜひいろんなところで回収がされていますけれども、ただ自分の家を片付けるための作業ではなくて、これが後々には世の中のためになる資源を出しているんだというそんな意識を持って活動していただければと思っています。

WAKUWAKU西郷はちょうど10年になりますけれども、これからもっとも掛川市内へ活動の幅を広げていきたいと思っています。また古紙を大切にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。以上です。

#### 【川勝知事】

どうも発言者1さん、発言者2さん、ありがとうございました。

それぞれテーマが女性、子どもというのが大きかったと思うんですけども、自治会に女性の役員が掛川では少なかったのだということを知りまして、それはよくないということが共通認識になったんじゃないでしょうか。ですから、女性をどのようにして地域の役員に任命するというのを当たり前にするかというのが課題で、これは、私は大賛成です。

それで陸前高田、あるいは遠野、これは岩手県ですね。岩手県というのは四国と同じぐらいの大きい県です。それで大槌町、釜石、あるいは山田町というのがありまして、山田町、大槌町、これは全部津波でやられたところでありまして、そのときに遠野というのは、花巻のちょうど真東に釜石という港があるんですが、そのど真ん中に遠野というところがありまして、そこ釜石や、あるいは大槌町、山田町、陸前高田、扇の要みたいになって後方支援をしますよとっておられたのが、結果的に私どもも遠野に拠点を結びまして、そこで寝泊まりをしながら応援に行くということができたんですね。

ですから、その知恵を生かしたらどうかということで、掛川は海岸から山あいまでありますので、この掛川一帯で川下と川上がいざというときに助け合えるというふうなシステムをつくったらどうかと。もちろん焼津と藤枝というのもそういう関係として、焼津の方たちが高校は藤枝に行かれたりするというので、地域的な一体感もありますから、あまり市中心にならないで、山あいの地域と、それから沿岸部とが交流するのがいいということとは、掛川モデルとしてでもやっていただければと思います。

それから受援をする、援助を受けるときに、やはり男女の役割というのが違うと思います。これは熊本でも避難所において女性、あるいは要介護者ですね、いろんな人たちがいらっしゃると思いますので、差し当たっては、女性で赤ちゃんを抱えておられたり、赤ちゃんが泣くとほかの人に迷惑がかかると思って、辛い思いをされるお母さんもいらっしゃるから、女性と男性というのをきっちりと分けないといけないというそう

いう配慮が必要ですね。

恐らくどの市町、県もそうですけれども、どちらかというと危機管理は男の方が中心にやっておりますが、そこに女性的感性を入れて、もしこういうときにはどうするのかということがあると思います。ですから、これも女性が入り込んでいく重要なところで、訓練のときに、こちらはもうやっていращやることはわかっていますけれども、それを再確認していただければというふうに思います。

それから消防団ですね。消防というのは男の仕事だという通念がありますけれども、静岡県の中には消防団員が2万人いращやるんですが、そのうち300人くらいが女性です。ただ女性消防団もいろいろな全国大会などで高い成績を修めて帰ってこられているんですが、絶対数が少ないわけですね。

だから、もう女の人は消防の活動は大変だからやっちゃいかんというふうに思っているのが間違いで、1回訓練すると役割分担ができるということがありますので、掛川市でせめて1割ですね、今は1%ちょっとですから、それを10倍にするというだけでもなかなか大変なことですけれども、ゆくゆくは半々くらいにいったらいいですけれども、これはすぐにはいきませんので、できるところから消防団にも女性の方たちがお入りいただくというふうなことも大切ではないかと。危機管理に関しましても、自治体の運営に対しましても、男女の共同参画というのが重要だというお話でございます。

発言者2様はお子様との関わりで、一言で言うと、地域の子どもは地域で育てようというこれの実践をされていると。学校の先生だけが子どもさんの教育にあずかっているのではないと。やはりお子さんをお持ちになって、PTAの役員も会長をされたと存じますけれども、それでどういうふうにして地域の子どもたちの役に立つかということで、恩師の先生との関わりがあったと。先生を大切にするというそういう文化が発言者2さんの中に生きているということですね。桜が丘中学で古紙を回収して、それを太陽光にかえたと、それなら自分もやってみようということで、その恩師のやっていることを弟子といいますか、かつての生徒さんが西郷小学校でやったと。

次どうするかということで、もうそれだったらLEDをしようとか、あるいは今は環境活動をやろうとか、ICTの活動をしようとかということで、この生涯学習という言葉もそうですけれども、地域ぐるみ、社会総掛かりで地域の子どもを育てるというのをもう少し教育委員会とタイアップする形といいますか、役割分担をする形で、先生の御負担がどういうわけか増えています。

子どもの数は少なくなっているにもかかわらず、先生の御負担が非常に高いということがありますので、これはぜひこのやり方を発言者2さんというお人柄の一人の個性にするのではなくて、掛川全体の、あるいは西郷からだんだん広げていく。

そういうことで、我々今一生懸命やっておりますが、社会総掛かり、地域総ぐるみということで、スポーツとか、あるいは芸術とか、農業とか、あるいは林業だとか、あるいは園芸だとか、そうしたものは体で身につくことです。

何も英数国理社だけが人間を立派にする道ではありません。ですから、なるべく早く、特にこういう豊かなこの里山の景観はすばらしいですね。これから、つま恋で恐らくインド人があふれかえっちゃうんじゃないですか、12億人いますから。HMIという会社の社長、これはもう3代目か4代目のインドの華僑の血筋の方なんです。日印協会、日本とインドの協会のインド側の代表です。インドは12億人います。その人たちは明るい、ICTとかすごく得意です。それを持ってこようというふうに彼は考えているようですね。

ですから、彼らがお越しになる。カレーライスの国だということなんですが、ご飯も食べる、もちろんパンも食べる、おかずは何でも食べる、ミルクが大好きだとか、いろいろあるじゃないですか。

ですから、インドの人たちも来るということで、食というのはすごく大事で、そういう食に関わる、あるいはこういうお花でお迎えすると、掛川に入った途端に花のまち、あるいはおいしい食材、茶畑という茶草場のきれいな空間の中に入ったと。いわば桃源郷に入ったというふうな、しかも、春夏秋冬それぞれ違うので、それぞれの味わいを何するということで、そういうところで仕事をするということが子どもたちにとっても当たり前のように、そういう教育というのをオールラウンドの教育をできるようにしていくその芽を今発言者2さんはしっかりと育てていらっしゃるんじゃないかというふうに思いました。

ですから、それぞれ女性、子ども、それぞれの活躍をさせるための我々大人といいますが、今責任者の方たちがその2つの、どちらかというと今まで弱いと言われている方たちを育てるための運動のモデルが今できつつあるなという感想を持った次第です。ありがとうございました。

### 【発言者3】

よろしくお願ひします。皆さん、初めまして、桜木地域生涯学習センター長を務めております発言者3と申します。

簡単に自己紹介をさせていただきます。私は大阪府堺市の出身です。16年前にこちらの掛川

の方に嫁いでまいりました。現在、主人と中学3年生の息子がおります。主人の両親と主人の父の姉と、ポンジロウというすごく大きい猫とミミというちっちゃい猫と、人間6人と猫2匹で暮らしています。

趣味は楽器演奏で、ずっと学生のころから吹奏楽をやっていて、今も近隣の保育園ですとか幼稚園の方に演奏でお誕生日会とかに呼んでもらっています。ぼかぼかアンサンブルという集まりがあるんですけども、そちらでお手伝いさせていただいています。

まず学習センターのセンター長ということで来たのはなぜかというところなんですけれども、幼稚園で家庭教育学級の学級長をさせていただいて、小学校のPTA会長と中学校のPTA会長を去年させていただいて、あっ終わったなと思ったときに、ちょうど地区の区長会長さんの方から、ぜひセンター長をやってほしいということでお話がありました。

今年度、掛川市ではまちづくり協議会というのができたんですけども、それができるに当たって、私は個人的にお手伝いができたらいいなというふうには思っていました。

メンタルコーチ、コーチングですとか、アングーマネジメントのファシリテーターとか、コミュニケーションの方で何か地域の人をつなげる役に立てればなというふうに思っていましたので、そちらの方で行くつもりだったんですけども、でもセンター長の方のお話が来まして、ちょっと悩んだんですけども、主人が「来たものはやれ」と言うので、基本的には回ってくるものは自分にはできるのではないかなというのと、やったことがないので、うまくできるかどうかわからないけれども、何とかなるかなというのでお引き受けしました。

皆さんの地区にも生涯学習センターがあると思います。そちらの方の仕事というのは、地区のスポーツ大会、ソフトボール、フーバ、ファミリーバドミントン、大きいのが地区の体育大会があります。桜木祭りという地区のお祭りががあります。広報は年に3回、文化部の方で取材に行ってもらって、それを編集して発行しています。

また、女性学級といって女性のグループですとか、ゆうゆう大学という70代、80代の女性の30名ぐらいのグループがありまして、月に1回、いろんな方のお話を聞いたり、ゲームをしたり、あと旅行に行ったり、すごくいいサークルがあります。そちらの取りまとめですとか、交通安全とかあります。多分皆様の地区にもある地区行事の取りまとめをしているのがセンターです。

私がセンターの仕事をさせていただいたのが初めてですので、何だかわからないままに、やっと一息ついたかなというところなんです。でも、本当にいろんな方に支えていただいて、

やってこれました。

その仕事の内容というところでは、まだこれからいろいろもっともっとうちしたいなというところがあるので、お話しすることというのは特にはないんですけども、せっかくの機会なので、私のすごく何でもここまで自分がやるのかなと思うところをお話しさせていただきたいと思います。

私、このセンターの仕事以外に、静岡県の家庭教育支援員と掛川市の子育てサポーターと、あと行財政の改革審議会、自分のコミュニケーションの講座と、あと読み聞かせのボランティアだったり、そういうのをいろいろやっているんです。いろいろさせていただくのはすごくありがたいことですし、自分がだれかの役に立つというのはすごくうれしいです。

喜んでくれるその人の笑顔が見えることをさせていただけるというのはすごくうれしくて、特にもう絶対これで人の役に立つために生きていこうと決めたのは、ちょうど小学校のPTA会長をさせていただいたときに、桜木小学校に二宮金次郎さんの銅像を建てるということがあったんです。

そのときに学校のリサイクル資金と地区からの寄付金で建てるというふうになったんですけども、ただ、そのお金を集めて建てるというだけでは、それはどうなのかなと思いましたが、とにかく勉強しよう。自分自身もそうですし、子どもたちにもその金次郎さんのことを知っていただきたいというふうに思って勉強させていただきました。

掛川は報徳社がありますし、皆さん御存じだとは思いますが、私、あまり金次郎さんのことは知ってなくて、とにかく勉強をしながら働いていた勤勉な人というイメージしかなかったんですが、大人になってからの金次郎さんというのは、本当に600以上の村々を再興させた、本当に自分の人生、自分の時間をすべてかけて人のために尽くしたすごい人だったんです。

村おこしだけではなく、そこに住んでいる人たちのよいところを引き出して、村おこしと人おこしをした、すごくもう本当に感動して、私金次郎さんみたいに本当になりたいって思ったんです。

金次郎さんの教えの中に、「万象具徳以徳報徳」という言葉があるんですけども、「万象」すべてのことには「具徳」徳が備わっていて「以徳」徳をもって「報徳」徳に報いるということなんですけれども、これを簡単にひらがなであらわした詩があります。

どんなものにも よさがある

どんなひとにも よさがある  
よさがそれぞれ みなちがう  
よさがいっぱい かくれている  
どこかとりえが あるものだ  
もののとりえを ひきだそう  
ひとのとりえを そだてよう  
じぶんのとりえを ささげよう  
とりえととりえが むすばれて  
このよはたのしい ふえせかい

ということで、人と人がつながっていくことで、どんどんどんどん世界が広がっていくよというこれを知ったときに、あっ私、できないこともたくさんあります。でも自分にできること、何かできるかなと思って、私が生きてきた45年の中でいろんなことを経験して今の私がいます。

ここにいらっしゃる皆さんもそれぞれ生きてきた中でいろんな経験をして、いろんなことを考えて、今の皆さんがいらっしゃる。みんな別々の人で、その皆さんの中のできること、できないこと、できることをつなげていけたらすごくいいなというふうに思いました。

まちづくり協議会もできましたし、そちらの方で人がつながっていけばいいなというふうに思います。何よりやっぱり一番頑張れるのは、私、桜木がすごく大好きです。春には桜と菜の花がいっぱい咲いて、夏にはホタルがたくさん飛びます。何よりも人がすごく温かくて、桜木の人の笑顔を見るとやってよかったなというか、させていただいてありがたいなというふうに思います。

皆さん、これからまちづくりということで何かされていくと思うんですけども、どうか自分は何が好きなのかな、何が得意なのかなというところを見つけていただきたいと思います。それは本当に人それぞれで、自分にできないところは絶対誰かができます。誰かほかの人が得意なことというので埋め合わさっていくので、そういうふうにしてみんながつながっていけばいいなというふうに思います。

あともう1つですけれども、まちづくりとか人とつながるというのも、もちろん大切なんですけども、一番お願いしたいことは、どうか家族仲良く、御夫婦仲良くしていただきたいなというふうに思います。

家族で安心・安全な場があつてこそ、そこから何かができるというふうに思いますので、

身近な方をやっぱり一番大切にして、さらに、もう1つ地区のために頑張っていけたらいいなというふうに思います。以上です、ありがとうございます。

【発言者4】

皆さん、こんにちは。私は小夜の中山という旧東海道の三大難所のすごい坂を登った上にあります掛川市佐夜鹿というところからやってきました発言者4と申します。

私は小学校3年生から1歳半までの4人のお母さんです。私たちは4年ほど前に子育てするには静岡がいいねということで、夫の実家があった沖縄県から私の実家がある掛川市の方に家族で引っ越してきました。いつも帰省の際には富士山静岡空港が近いということで、とても助かっています。ありがとうございます。いつも利用させてもらって、本当にありがたいなと思っています。

引っ越ししてきてからの4年で、暖かい沖縄から静岡に来たので、この4年で大分私たちも寒さの方に慣れてきました。私の子どもなんですけれども、4人いるうちの2人が人とのコミュニケーションがちょっと苦手だったり、ある特定のものにこだわりが強いということで、子ども自身がとても困っていることがたくさんありまして、発達障害という診断の方を受けています。

この発達障害に関わる特性で、なかなか生活しづらさというのをサポートしてもらうために、子どもの就学前、小学校に上がる前までに療育施設の方に通っていたときの御縁で、仲間ができたんですけれども、最初は療育施設というのは就学前までだったので、就学してからはそういった療育施設がこの掛川市にはないものですから、個人的に集まってお茶のみ友達でそれぞれ子どもの困ったことを日ごろ話していたんですけれども、そういった中から発達にこういった凸凹、発達障害のある子を含めて、発達に凸凹のある子育てにおいて、いろんな関係機関から受ける情報に、必要な人はどんどん自分から、これはどうしたらいいんですかって聞きに行くんですけれども、なかなか聞きに行けないお母さんだったり家族だと、向こうから親切にこんなのがありますよ、あんなのがありますよと言ってくれるわけではないんですね。なので、とってもその人、その家族によって情報に個人差があるという話になりました。

私たちもまた親として子どもに今後社会で大きくなっていく上で社会に適応していける力を育てていきたいなという思いもありまして、平成25年に発達に凸凹のある子どもと親のサークル「ITTA」というものを立ち上げました。

「ITTA（イッタ）」とローマ字で「ITTA」と書くんですけれども、よく皆さんに

「ITTA」ってどういう意味？メンバーの名前を1文字ずつ取ったんだよねとか聞かれるんですけども、これはいろいろお茶のみ友達の中で出る話が、大体いたたまれない話なんですね。いたたまれない会じゃあまり人に言えないねということで、ちょっとおしゃべりに言ったのがこの「ITTA」ということです。

「ITTA」は目の前にいる子どもと楽しく生活するということを目標に活動しています。先ほどお話しした情報に関する問題なんですけれども、当初は市役所に行って、こういった情報をまとめた冊子をぜひ作ってください、私たち欲しいんですってお願いしに行ったんですけども、しかしながら「検討します」ということで、何カ月か音沙汰のないまま過ぎていきました。

もしこの冊子が行政の方で作られて手元に来るころには、もう私たちはその情報を必要としてないよねという感じになったんですね。でも今私たちが欲しい情報というのは、じゃ何とか自分たちにできることはないかなって、この作るために自分たちができないかなって思っていたところに、ちょうど御縁がありまして、平成27年度掛川市子育て協働モデル事業というものの案内を受けまして、応募し、採択の方をいただきました。

各関係機関への橋渡しの方を掛川市のこども政策課さんの方が窓口になってくださいまして、とてもよくつないでくださいました。ただ、私たち親の団体がこういう冊子をつくりたいので協力してくださいといっても、なかなか、えっ大丈夫かなと思われるんですけども、そこにひとつ掛川市の協働ですということがあると、あっじゃあという感じのごくスムーズにお互いできることをやっという形で作成の方をしていきました。

この冊子をつくるに当たっては、小児科や学校、教育委員会、子育て支援センター、療育機関の先生など、この発達に凸凹のある子どもを真ん中にした各関係機関の方に集まっていたいて、編集委員会の方を立ち上げました。

そして、この冊子なんですけれども、『nikori ニコリ』といって、これは関係するみんながにっこりとほほえむようなゆとりある生活を目指してという意味があるんですけども、この表紙もメンバーが、すごく絵がうまいメンバーがおりまして、お母さんが書いています。

中の方もお母さんたちと手作りで、各関係機関の先生方に本当に御協力いただいて、多分行政がつくる冊子って結構堅いんですよ。大体連絡先、関係機関とか、そういう情報しか載ってないんですけども、これはちょっとほかのものと違うところは、私たちが素直に疑問に感じたことをそのままインタビュー形式で載せているところです。例えば通院

したいときは、通院するメリットって何ですかとか、就学を考えるとときに何を基準にしたらいいんですかとか、結構突っ込んだ話も素直に載せています。

こういった形で、こちらは 1,000 部作成の方をいたしまして、必要な方へ現在配付しています。とても皆さんから御好評をいただいているんですけども、保護者の方も、また支援に携わる方も、共通した認識を持つ上でも、こういった冊子を使ってもらって、本当にいろんな場で利用をしていただいています。

この冊子『nikori (ニコリ)』を作成していく上で、発達に凸凹のある子どもを取り巻く環境についても考えることがたくさんありました。その1つなんですけれども、専門の医療機関への初診に3カ月から6カ月ほどの長い時間がかかっているような状況がありました。先日 Yahoo! とかの全国ニュースでもちょっとあったんですけども、大体どこの地域でもそういった形なんですけど、ここ掛川市でも同じような状況です。専門医を受診するのに時間がかかるなら、まず最初に家庭でも何かできることがあるんじゃないかなっていうのを考えて、今年度はまた掛川市の方と協働していただいて、ポジティブ子育て講座ペアレントプログラムというのを実施させていただいています。

昨年度県の方でもやられていたということをお聞きしたんですけども、ここ掛川市でも全6回の講座を現在開講しています。私たち親の思いとしては、これから先切れ目のない支援を行ってほしいなと願っています。現在、発達に凸凹のあるこういった支援が必要な子の割合は約6%と言われていています。大体のクラスに2, 3人いる割合です。

先ほど学校の先生の業務量が大変というのもあると思うんですけども、そういったことにも関わってきて、学校教育や地域などでも発達に特性のある子どもへの理解は、その後の高等教育や就労にもとても大きく関わってくる問題です。地域差のない学びの場の提供というのをぜひお願いしたいなというのと、どのような子どもも親も必要な時期に必要な支援や配慮を受けることができる体制が整えば、この先社会の一員としてふじのくに静岡をつくっていけるような一人となることができるんじゃないかなと思います。

また、先ほど平太さんの方からも、学校の先生がすごく大変ということもあったんですけども、子どもと保護者、支援をサポートできるような場所というのを、またこの掛川市の方にぜひつくっていきたいと考えています。

この掛川が、静岡もなんですけれども、子どもを産んでよし、育ててよしのようなところになるように、親としてまたできることは何かということメンバーと、またほかの同じような悩みを抱えるお母さんとも、だれかの力になれるように活動していきたいと思

いますので、ぜひ御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

【川勝知事】

いいお話を発言者3さん、発言者4さん、どうもありがとうございました。

御家族、あるいは子育てに関わる共通したお話だったと存じますけれども、陰に隠れてということじゃないですけれども、御主人がいいですね。小学校のPTA、中学校のPTAの会長さん、その後生涯学習センターのセンター長をお引き受けになったときに、「来るものはやってみたら」と、すばらしい御主人です。

それからまた発言者4さんも、沖縄でいい方と巡り会われて、こっちに來られて、本当にいい御主人をお持ちです。

聞いてみると、パソコンはできるし、音楽はできるし、掛川市の行財政改革の委員をなさっておられるし、むちゃくちゃ才能のある方であるなど。別に自慢されて言っているわけじゃなくて、自然にぼろぼろ出てくるので、大変な人が塚から來られたなと思って、やっぱりいいところにはいい人が來るんですね。

いいところにはやっぱりいろんな人が來る、それがいわば魅力がじゃないかと、惹きつける力かと思うんですけれども、そういう地域が掛川じゃないかと。

聞いてみると、発言者3さんの場合には、何といても報徳の思想ですね。「万象具徳以德報徳」ですか、それをああいうやさしい言葉で言い換えられて、聞いているだけでほろっとしますよね。そのとおりでというふうに思いますから、そういうことで、しかも報徳思想というのは、今はもう掛川ですけれども、だけど小田原でしょう。600の村おこしは皆関東じゃないですか。だから掛川に何を二宮金次郎さんはしたのかと。関係ないんですね。

その思想が立派だからというのでこちらに根付いて、その思想が外から來た発言者3さんのハートを打って、そして、それで人の役に立つんだったらやりましょうと、人のため、社会のために役に立つことだったらやってみましょうということで、それを実践されているということでありまして、これも掛川のかなということと同時に、やはり旦那様が自分の奥方に対して、そういう才能を皆持っているように、本日より今日こちらにいらっしゃる方は、自分の嫁は実はそういう潜在能力を持っているんだというように考えを改めていただいて、「あなた、ちょっと何々さんとこれをやりたい」と言われたら、「やめとけよ」なんて言わないで、「やってごらんさい」と全員言うようにして、女性の力が自然に出るように、彼女が大事にしているのは子どものことであり、旦那様のことであり、そして旦那様を大事にされている御両親のことであるに違いありませんから、それを放ったらかし

です。そのような人はそもそも相談もしないですね。ですから、そういうように思いなして、掛川では実は女性を立てる男ぶりの男性がいると、これがいいんじゃないでしょうか。

それから、発言者4さんが「ITTA」というのがいたたまれない話というのは、それを聞いただけでもいたたまれなくなります。本当にそうだと思います。それを「ITTA」というふうにして『nikori (ニコリ)』という人の役に立つ、自分と同じ問題を抱えられていらっしゃるお母様にこれを供給しようということで、これをつくられた。そしてここに子育てのモデル事業を掛川がするというそういう行政の力が後押しをして、それが掛川の名前が入ると、この『nikori (ニコリ)』の持っている存在感というか、PR力というのが広まったということですね。

ですから、厳しいことも言われました。行政の方が「検討する」ということは、しばらく何もしない。これは本当によくないと。お茶を濁して、いつまでたっても進まないということ。

差し当たって、ペアレントプログラムというのを言われたのが大きいと思います。お子様のことが一番中心なんですけれども、そのお子様の御両親の問題、御両親をどのように助けるか、学校でもそうなんです。子どもたちが一番大事なんですけれども、子どもたちを預けている先生を大事にすれば、先生が子どもを大事にしてくれるわけですね。

ですから、お子様が中心なんですけれども、お子様を抱えているペアレンツのこの方たちをどのようにして、いわばその悩みを解決して差し上げるかというプログラムですね。これが実は子どもの解決に役に立つと。そのペアレンツはかつてペアレンツであった人、もう既に子どもが自立した人、こういう人も入れて、子育ては特にお子様を、中学を卒業されて、やがて自立していかれるでしょう。そのお子様が自立をされた後、その経験を若いお母様方に還元していくというのがペアレントプログラムの中で特に女性の方たちの知恵というのを生かせるんじゃないかと。

やっぱり昔『桃太郎』があるんじゃないですか。おじいちゃんが山に芝刈りに行って、二宮金次郎ですね、おばあさんは川に洗濯に行くと。子がどんぶらここと流れてきたというんでしょう。それをおばあさんが育てたじゃないですか。

自分の子でない子を大事に、大事に育てると立派な男の子になって、桃太郎になって鬼退治をしたと。

『かぐや姫』はどうでしょう。おじいさんが竹藪に入っていったら、きらきら光る竹があって、それを割ってみたらかわいい女の子が出てきたと。『かぐや姫』も帝に恋をされる

までになられるわけですね。それも、だれが育てたんでしょう。おばあさんじゃないかと思えますね。

ですから、そういうかつてお子様を育てたような方が、愛情だけを、特に孫の場合、かわいいじゃないですか。お父さん、お母さんは子どもに対するやや欲張った期待がかけられますけれども、おじいちゃん、おばあちゃんは孫のことは愛情だけを注ぐので、愛情量というのがあるので、その愛情量というのを持っている、やがてそれを人に返すことができると。

それを分け与えるというのがペアレントプログラムの中で、特に今健康寿命世界一が静岡県的女性ですから、そういう優れた女性の子育て能力を生かしていくというプログラムになっていく。

ちなみにちょっと言いますと、普通の哺乳動物は、子どもが生まれなくなると全部死ぬんです。ゾウでもネズミでも一緒です。ところが人間の女性だけが更年期というもうお子様を産むことができなくなった後も長く生きるでしょう。これは人間だけだそうですよ。

これはおばあさん仮説といいまして、そのおばあさんがいることによって、若いお母様方が子育てをしやすくすると、そのために神の計らいによって、子どもが産まれなくなった体でも長生きができるように、しかも男よりも長生きができるようになったと。これは私が勝手に言っているのではなくて grandmother hypothesis といいまして、日本語で訳すとおばあちゃん仮説ということなんですが、そういう理論があるぐらいです。それはほかに哺乳動物にないからなんです。ですから、昔話にもございますように、やっぱり今悩んでいるお母様方がいらっしやると。

もう今発言者3さんの場合にはどンドン、どンドンと体育祭でも半日が1日になって、いかにも楽しそうであります。そして発言者4さんの場合には問題を抱えていらっしやるので、この問題は地域で一緒に解決していくと。

今日実は、西部に泊まりがけで来ているんですよ。知事室というのは通常は県庁にあるんですが、もうそこで仕事していたって書類見るだけでしょう。現場にこの問題があるので、移動知事室というのを年に4、5回やっています、昨日、今日とこちらに泊まりがけで来ておまして、今朝、磐田の磐田学園に行きました。

そこで老朽化している学園の中で発達障害の子や、あるいは虐待に遭った子どもたちを世話している先生方と子どもたちを見てきたんですけれども、そういう子どもたちを助けないといけないというのは我々の仕事じゃないかと思ひまして、掛川モデルみたいなもの

ができればいいなど。

やっぱり最後は、子どもはお父さん、お母さんがそばにいて、そしてそのお母さんやお父さんが愛情を注げるということが、そして虐待をするなんていうことが決してないようにペアレンツで教育をしていくと、これがそういうことを経験した50歳以上の方々の重要な報徳精神になるのではないかというふうに思った次第です。役に立つことがあれば、また言ってくださいませ。ありがとうございました。

#### 【発言者5】

皆さん、こんにちは。山東茶業組合の代表をしております発言者5と申します。本日はこの会にお招きくださりましてありがとうございます。また知事と会えて大変光栄でございます。

初めに、組合の概要をお話しさせていただきます。掛川市の市街地から東へ12キロほど島田寄りになりますけれども、茶文字がある粟ヶ岳のふもと、東山地区から来ました。自園茶農家が1戸、そして共同茶工場が3工場あるんですけれども、その中の1つになります。よく「サントウ」とか、「ヤマヒガシ」茶業組合と言われているんですけれども、屋号が組合名になっておりますので「山東（ヤマトウ）」と覚えてください。

百十何戸で東山地区は大変少ない、小さい地域なんですけれども、ほぼ7割ぐらいが本当にお茶の専業農家というところからやってまいりました。それで親父の代になりますけれども、昭和40年に創立で41年から共同しての操業になり、今年で52年目を迎えます。

組合員も2代目、3代目となりまして、現在16名組合員、それで合計の茶園面積が59haあります。そのうち1.4haの茶園を組合で管理してまして、昨年から30歳の男子1名を年間雇用として雇っております。お茶のことは素人ですので、指導しながら、こちらも勉強しながら、教えながら、組合の茶園管理と製造の方をお願いしております。

それから、後継者の確保と組合の若返りを図るために、うちの工場では60歳定年制をとっております。60歳になって後継者が就農した場合は、その息子がメインになります。していない場合ですけれども、ちょっと厳しいですけれども、生葉代の減額とさせていただいております。

知事も御存じだと思いますけれども、平成16年ごろを境に茶況の方は今大変厳しいです。でもそんな中、お茶専業で私たちは頑張っております。今日は知事にお願いではなく、創業当時から組合が目指す日本一の深蒸し茶をつくるために取り組んでいることを限られた時間の中ですので2点お話をさせていただきます。

1点目は、おいしいお茶づくりに欠かせないことは土づくりが基本だと思っております。100年以上前、東山地区にお茶が栽培されたころより、茶園の周りや採草地のススキやササを秋から暮れにかけて刈り込み、乾燥させてから茶園の方に敷き込みます。それがやがて有機質肥料となり、また土壌の物理性を改善し、茶の木の根が張り、力強いお茶を生産いたします。

当組合では31haぐらいの茶草場があります。31haというとどれぐらいかといいますと、例えると東京ドームで6.5個ぐらい。それぐらいの茶草場があります。10アール、1反です。1反にどのくらい茶草を入れるかといいますと、目方で500から600キロぐらい毎年入れております。時間ですけれども、一人でやった場合、草を刈って、茶畑へ敷くまでにおよそ30時間を要しております。

毎年、草を刈り込む作業によって、貴重な生物が棲む特別な場所となり、生物多様性の確保と、また温暖化の原因になりますCO<sub>2</sub>の吸収にも役立っていることが調査でわかっております。この継続型伝統農法が2013年に世界農業遺産に認定され、茶草場農法実践工場第1号となっております。この昔からの、先輩たちからの長年の取組が実を結び、世界に認められましたことは大変誇りに思っております。

続きまして2点目ですけれども、大切なことは製造技術の向上だと思っております。その取組の中で一番重点を置いているのが品評会でございます。品評会には全国品評会、県の品評会、それと関東ブロックの品評会と、三大品評会があるんですけれども、それに毎年出展しております。目標は常に1等1席の農林水産大臣賞を目指しております。そして、掛川市の産地賞の受賞、それに貢献し掛川の基幹作物であるお茶の振興に努めることでございます。

ここが重要なポイントなんですけれども、目的としましては、組合員が丹精込めたお茶を、責任を持って製造するお茶師の心得を身につけること、それから先輩から後輩への技術の伝承の場でございます。そして組合員がこの大臣賞を目指すという1つの目標に向かって進むことが組合の輪にもなっていると私は信じております。

ここで自慢になるかもしれませんが、昨年の第70回の全国茶品評会深蒸し煎茶の部で念願の1等1席を受賞することができました。

過去から見ますとこれは4度目になるんですが、平成18年に静岡大会だったんですよね、そのときも大臣賞を取って、しかしそこから10年かかりました。その中で平成21年、24年、26年と1点差での1等2席が3度あり、大変悔しい思いもしてまいりました。

品評会の製造は、一番茶の操業が始まるぎりぎりの限られたときに3日か4日かけて、芽の状態や天気を気にしながら取り組むわけです。去年は春先、目立った気象災害もなく、天候に恵まれて順調な生育でございまして、製造することができました。

その一杯を揉むのに一芯二葉50キロの新芽を朝早くから組合員と家族が、一芯二葉で丁寧に摘み取り、製造部長という重鎮がいるんですけども、その人を中心に若手の組合員が10時間以上かけて、機械に何度も手を入れて、お茶の状態を見るために気の抜けない作業であるんですよ。だけど、中でも若い組合員ですのでいろんな話もするかと思いますけれども、笑顔もあり、大変雰囲気の良い中ででき上がり、最高の結果を得ることができました。

また、この受賞には関係機関の方、また関係者の皆様の御指導があったものと忘れてはならないと思っております。

現在、茶園の敷く作業も大体終わるぐらいの時期になるんですけども、これから2月は一番茶前の管理作業、肥料や防除、また一番茶に古葉が入らないように、またきれいに化粧ならしをしているんですけども、仕上げをきれいにする作業に移って、一番茶に入っていきます。

品評会で受賞したとき、祝賀会に市長や県議の方もお出でございまして、本当にありがたかったんですけども、お褒めの言葉をいろいろもらったんですけども、あんまり調子に乗らず、今年も気合いを入れて大事に仕事を、やっぱりおいしい深蒸し茶をつくりたいと思っております。

終わりに、粟ヶ岳のふもとからやってきたんですけども、あの茶文字、今ヒノキで植わっているんですけども、縦横130mぐらいあります。そこで昭和7年が一番初めのときだそうです。そのときは松の木で植えたそうですけれども、向かい側からと思うんですけども、手旗信号で位置を決めながらやったと聞いております。それがやはりこの地区で、お茶で生きていく意思のあらわれだというのは僕たち先輩から聞いていますので、その先輩たちに負けないようにこれからも取り組んでいきたいと思っております。

2点大事なこと、ほかにそんな特別なことをやっている工場じゃないんですよ。ただ基本に忠実に、みんな仲良くやっている工場で、平均年齢も今組合員は47歳で、自分が古くなっちゃうんですけども、若手が頑張っている工場ですので、また山東と聞いたらお茶を買ってください、お願いします。以上です。ありがとうございました。

【発言者6】

皆さん、こんにちは。静岡遠州観光ネットワークという会の代表をしております発言者6です。それはどういう団体だねというふうに思われがちかと思いますが、実は土台になっているのが掛川観光協会、掛川観光協会の会長をしているということで、実はこんなことがあったんですね。

観光のPRをしていこうということで、北海道へ行ったり、九州へ行ったり、いろいろな各地を回ってすることがあるんですが、掛川という言葉を出しても、つま恋は知っているも掛川がわからない、知られていないというところがあります。もちろん富士山ということではすぐわかるんですけども、遠州ということも何となくわかる人がまだいますね。そこでやはり周辺と一体になって協力し合わない、地域のPRなんか全くできない状況にあるということを痛切に感じたんですね。

その前に観光って何かというと、観光施設とかホテル・旅館だとか、飲食店をやっているだとか、それが観光で、それに関係した人が観光の推進をすればいいというふうに思われがちなんですが、実は観光というと、地域の輝きや国の光なんですね。そこがまちづくりや人づくりにつながっていくという大事な、これはですから観光というのは、観光業者のためのものではなくて、市民一人ひとりのために実はあるという動きであるわけなんです。それだけ観光というのは私たちは大切だというふうに認識をしています。

そして、この静岡遠州観光ネットワークですが、磐田から御前崎までの磐田、袋井、森町、菊川、御前崎、掛川という6市町で構成をされています。そこが連携をして、様々な観光の、例えば情報発信を共有していこうだとか、観光資源を一緒になって磨き合って連携をして発表していこうというようなことをやっているわけなんです。

今日は、たくさんの取り組みをその中でしているわけなんです、特にインバウンド、海外に対しての戦略というのを組み立てて、一生懸命海外から人を呼ぼうというようなことを展開しております。海外からというと、とかく中国から爆買いに来た、そこでたくさん買い物したというようなイメージをしがちなんですが、それは一つの側面であって、これはたくさんのいろいろなつながりをしております。

私たちの特に海外戦略、インバウンドについては、ニューツーリズム実行委員会というのを行政とまた一体になって、6市町の観光協会と6市町の行政とが一体になって展開をしているわけなんです。その中には大きく2つの基点を今持っています。

1つはシンガポール、もう1つは台湾というところに営業をかけているわけなんです、

シンガポールについては、実はシンガポール、550万人ぐらいしかいなくて、そのうちの国民350万人だし、どれだけ効果があるんだよということを言われがちになります。これは情報網、物流網、さまざまな経済、金融についても核になっている国であることは間違いないんですが、実はシンガポールという国は、オセアニアというニュージーランド、オーストラリアにつながる窓口であるんですね。そして、アジア諸国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、そうしたところにずっとつながる核、そこからその輪が広がっていつているわけなんですね。

ですから、そこには先ほど平太さん言っていましたが、インドという入り口でそこにあるわけなんです。私たちの最終的な目的というのは、そのインドとのつながりをどういうふうに持っていかうかというところを戦略的に実は描いているんですね。

それを県の機関とも一緒になってシンガポールにも、台湾にも実は県の出先が出て、非常に優秀な職員の皆さんを派遣して、そこで基点になって私たちと実は連携をしていますが。

それからもう1つ台湾のことを御紹介しますが、実は今週の月曜日、ほんの数日前24日なんです。これも台湾のサイクルツーリズム、実は台湾というのは自転車に関わる企業だけで2,000社ぐらいあるんですね。そして市民の中にとりか、国民の中にその自転車に関わる産業である誇り、世界のトップシェアなんですね。そのトップシェアである自転車という産業と、それを大いに生かした旅、サイクルツーリズムがその国の中で重要な位置づけを持っています。

そのガイドサイクリングをやるグループがあります。ロハス協会というんですが、その出会いも県にサポートしていただいたわけでございます。そことずっとその後連絡を取り合っていて、一緒に何かやれないだろうかということで、昨年こちらにその会の4人ほどお招きをしました。

そして来たら、この遠州地域の農村景観であるだとか、茶畑景観であるだとか、里山、古い街並み、人々の暮らしの様、そうした様々なことに感銘を受けて、そうした中でサイクルツーリズムを展開している私たちの「ゆるゆる遠州」という会があるんですが、その理念と非常に合致するから、ぜひ提携をしようということで、今年の春からずっと準備をして、この1月24日に提携・調印式を現地で行うことができました。政府の観光局も立会人として参加をいただきまして、実は知事さんにもメッセージがあって、自転車で走りに来るように言ってくださいってというような話もしていました。

そういうこともあって、自転車を通じた交流というのを進めています。自転車というと、何か特別ある部分の人たちが自転車通学だとか、走り屋のサイクリストとか、ごく一部の人みたいに感じるイメージがありますが、実は自転車で走るということをやると、本当にゆっくりのローなリズム、そして健康に通じる。これをやると実は地域を見つめ直したり、地域を学んだり、その魅力が何かということを確認する、地域が好きになることなんですね。そして、それぞれがそれをお互いに学び合うということは、相互に成長に結びついていくというようなことが、その先にあるというように思います。

私たちは交流を通じて、これからの年間事業計画であるとか、もっとその先にある可能性であるとか、そういうことについて協議をする機会も、その調印式の後、また翌日1日かけて持ったりして帰ってきたばかり、ほやほやの今気持ちでいるわけでございます。

この掛川や遠州地域の自転車で走る環境を整えようということで、掛川では実は50カ所のバイクフレンドリーステーションというのを設けています。さまざまな施設や公民館だとか、コンビニだとか、いろいろな施設で空気入れだとか、工具だとか、地図だとか、地域の情報をそこで発信するというような環境を現在持っていて、それをさらに広げて、袋井に広げたり、天竜浜名湖鉄道がそれを取り入れたり、伊豆の方にそれが飛び火をして、伊豆の方でもそういう展開をしたりということで、ここで誕生した仕組みというのが全県に現在広がりつつあります。これはですから台湾のサイクルツーリズムを行う人たちともその輪をさらに全県に広めていこうという私たちは構想と期待を持っています。

そこでいろいろ、もっとこうしたらいいなというビジョンみたいなものが生まれていきます。実は地域のことをよく学ぶには、交番とか派出所、これがとてもやはり大きい役割を実はしているんですね。ここ道路を走るときは気をつけなさいよとか、そういうこともあります。道路整備をやるとか、サイクリングロードを作るというとなかなか大変ですが、実は地域に既存にある人々とか施設がそれを担って協力し合うということは、とてもあるものをすぐ取り込めるわけで、それを実は依頼をしたことがあるんですが、門前払いという大きい言い方ですが、とてもできないということで警察署からも断られました。

それはなぜかという空気入れを置いて盗まれちゃったらどうするんだとか、それで窓ガラス割られたらどうしたらいいだろうかということが出てきました。これ仕組みをもうすこし工夫すればできるわけでございますので、ぜひそうした施設も協力いただけるような形をとって、全県に自転車で走る人たちの環境を整えるフレンドリーステーションのような仕組みというのを持てるといいなということを感じます。

これは改めて言うまでもありませんが、2020年のオリンピック、伊豆で開催される自転車の競技であるとか、そうしたところへずつつながってくる可能性というのがあるかというふうに感じています。

それから、交通機関もせっかく天竜浜名湖鉄道でバイクフレンドリーステーションを設けていただいているんですが、そのまま自転車をダイレクトに持って乗ることが現在はなかなか仕組みでやりにくいです。

ですので、ぜひ周りの人たちがみんな運動になって、天浜線だけでなく大井川鉄道も、伊豆のさまざまな鉄道も、そうしたところでも自転車をこんなに観光の仕組みとして取り入れているところはないというぐらい、ぜひこの地域で取り入れていただくと、それが1つの柱になっていくのではないかなということを感じております。

それから、最後にもう1点、実は教育旅行、これも県が一生懸命にやっていただいて、静岡県からもたくさん的高校生が今現在海外に行くようになって、また受け入れもやってきているんですね。そこの目玉になるのが何か。例えば学校に行って、学校で交流事業をやるというのももちろん大事、地域の産業を学ぶということも大事、ところが一番切に願うのがホームステイ、ファームステイ、ホームビジット、こういう仕組みなんですね。日本人の持つライフスタイル、生活の習慣、そういうものを学ぶということが何にもかけがえのない経験になります。

ここがこの静岡県が第二のふるさとに、昨年もシンガポール、台湾からたくさんの幾つかの受け入れを行って、私たちがそれをさせていただきましたが、ぜひ会場にいらした皆さん、これからいろいろな各方面の連絡や方法を使って、皆さんにこのPRをしたいと思っておりますので、ぜひ各地で玄関のドアを開けてお迎えをいただくような仕組みというのをつくっていただくとありがたく思います。この4月にも早速2つの台湾からの依頼が40名と80名ぐらいというところで来ておりますので、ぜひ協力を、これは会場の皆さんにお願いをしたいというお願いでございます。

ぜひ、ひとたび、再びこの地を訪れ、その訪れることが交流人口の拡大、定住人口の増加というところにつながるように、そしてそうした交流が国際基準のすばらしい静岡県に発展していくということになるかというふうに考えますので、ぜひよろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### 【川勝知事】

発言者5さん、発言者6さんのお話の共通点は、この地域、掛川を中心にした地域の国

際性ですね。国際性を持った地域であるということを確認すると同時に、これを国際的にどのようにPRしていくかということに関わるものだったと思います。

何しろ茶草場が世界農業遺産になりました。これは掛川市長さんの獅子奮迅の御活躍があって、一発で決まったということがありまして、本当にそのときに私も一緒にお供できてよかったと思っております。ありがとうございました。

そんなわけで、いいお茶をつくるための茶草場農法、これが結果的に生物の多様性を残しているということで、その農法の地球に対する教訓といいますか、学ぶべきこととして一発で決まったわけですね。そして品質がいいということは、山東茶業組合が平成18年、平成27年に農林水産大臣賞、日本一になって、平成21、24年ですか、あともう1年ぐらいナンバー2、要するに次点であったと、1点差で。いかに品質の高いものをお作りになっているかということなんですね。山は富士、お茶は静岡日本一といいます。

おもしろいことに富士山が世界文化遺産になったのが平成25年の初夏のころですね。同じときに茶草場になったんですね。本当にこれはもう夫婦一緒というような感じです。富士山というのは、今白いですよ。日照時間日本一が静岡県でしょう。だから、太陽光で温められて雪が溶けて、そして植物が生まれる、その植物の中で人間の健康に一番いいものとして、この地域にお茶が自然に選ばれて、日本一の茶産地になっているわけですね。その品質が日本一であるということが認められたわけです。

そうするといろんな人が静岡を訪れるんですね。大体私も京都に生まれて、東京で仕事をしてきて、ここは18歳のときから何万回と往復していたわけですが、「ひかり」と「のぞみ」が止まらないので直接早く行きたいということで、ここで10年前にわらじを脱ぐまで知らなかったですよ、そのよさというのを。

ところがやっぱり富士山を見ようと思うと、三島で降りるとか、あるいは新富士で降りるとか、そういうことをなさって、降りてこられると何、源兵衛川があるじゃないかとか、これが世界かんがい施設遺産になるとか、深良用水って皆さん知らないでしょう。それが世界かんがい施設遺産になるとか、富士山のふもとに駿河湾があるじゃないかと。これは世界で最も美しい湾にしましょうとか、どんどん、どんどんそういう世界クラスのものが、ちょうど平成25年の6月から平成29年1月までちょうど44か月でしょう。44か月で44本ですよ、世界クラスというふうにして勝手に降ってくるんです。世界クラスなんですよ。実感ないでしょう。

実はそんな県、残りの46の都道府県、どこにもありません。1か月の1件の割合で世界ク

ラスだというのが降ってくるわけです。もっと来ますよ、これから。ですから、これは人が来られるということの条件になっているわけですね。大体駿河湾にお越しになるクルーズ船も3, 4隻だったのが23隻でしょう。もっと増えますよ、これ。動くホテルですから。

そういうわけで、そういう人たちは必ず食事をしますので、和食が世界のユネスコの無形文化遺産でしょう。我々は和食も行っていますけれども、中華料理もあるし、フランス料理もあるし、それからイスラムの人に適うハラール食というのも、今空港を増築してそういう食堂もつくりましますし、県産のものを使って、そしてハラール食にぴったり合うのはお茶でしょう。アルコールじゃないですからね。

ですから、これは世界中の人たちが和食も含めて「和の食」ですよ。「和の食」というのは全部入っているということです、和というのは。1と2の和は3ですから、そういうふうに、1と4の和が5だとかいうように、中華料理も、イタリア料理も、それからタイ料理も、インドネシア料理も全部入っていると。大いなる和の食の都だと。大いなる和、大和（ダイワ）、訓読みすると「大和（ヤマト）」でしょう。ですから、我々は大いなる和の食の都だと。それぞれそのときのTPOに応じていただくことができると。しかし、お茶は欠かせないんです。

そういうことで、しかも品質がトップですから、これを落とさない、常に日本一を目指すというのが茶師としての心得だという発言者5さんの、平均年齢が47歳というのはうれしいですね。もう76歳まで壮年ですからね、日本一のお茶をつくっていただければというふうに思っている次第でございます。

発言者6さん、掛川の観光協会の会長さんですけれども、遠州全体の観光協会の会長をお務めいただいております。

大変に優れた指導者でいらっしゃるしまして、「情けは人のためならず」ということがありますが、掛川中心主義でないんですね。結果的にお隣の地域のことをやっていくことが掛川のためにもなると、報徳の精神ですよ。そしてまた観光というのは、平和でないとできませんね。危ないところは行かないですね。平和で安全なところに来られると。

それが去年は2,400万人を超えました。一昨年は2,000万弱でした。間もなく3,000万、4,000万、5,000万、6,000万、これがここ10年以内にやってきますね。6,000万になると人口の半分が外国人になる。しかもうちの空港は外国人の乗降客数、地方空港の中でトップですね。しかも今空港の手続きが狭いので時間がかかるというので、今度建物を大きくしますので、ですからもっと便が増えます。確実に人が来られます。ですから、もう観光

というのは、この地域にとってはもう必然なんですね。

ですから、それをどうしたらいいかと。差し当たって近いところで台湾。台湾は、余り経度が変わらないでしょう。ですから時差は1時間ですから、実質ないに等しいですね。

そして、一番近い外国の1つです。ということは交通費が安いということですね。それから外国ですから、日本語が通じません。食事も違います。ですから、言葉も通じないということが、これが外国であることがわかる。

同時にそこは親日的です。大きさが適当です。先ほどシンガポールと言われた、シンガポールの大きさは東京23区の大きさです。あるいは淡路島の大きさですね。それくらい小さなところですけども、そのもっと手前のところに九州と同じ大きさの台湾があると。そして親日的だと。大きさとしては多様性に富んでますよ。九州もそうであるように、台湾はもっとそうです。玉山と富士山は兄弟関係です。

それから、さて、台湾の人が大事にしている、男になるにはどうしたらいいか、3つあるんですよ。1つは玉山に登ることだそうですね。ただし、ものすごく規制しているので、だれもが登れるというんじゃないんですね。

それからもう1つは日月潭という台湾で最も美しいと思っている湖を泳ぐことなんですよ。1年に1回しかありません。そこと浜名湖とが姉妹関係になったんですが、それからそこに行くために鉄道に乗らなくちゃいけないんですが、その鉄道、集集線という鉄道なんですが、その集集線と天浜線が姉妹関係になったんです。だからこれから姉妹関係ですから、掛川出発ですから、皆さん来られますよ。

そのときの鉄道局長だった人が、鉄道局長というのは、鉄道大臣ということですよ、向こうで局長という。その人が観光局長になられたんです。彼とは義兄弟なんですよ。だからよろしくと言った。だから人数が少ない。中国は13億いらっしゃるでしょう。だけど台湾だったら適当な人口ですから、友達になれるわけですね。

それから教育旅行と言われました。教育旅行のドン先生は、義兄弟まではいきませんが、非常に仲がいい関係です。そういう方を知っていると、それで話が進んでいきます。ですから、そういう関係をもっと増やしたらいいと発言者6さんはおっしゃっているんですが、だからホームステイやったらどうかと。絶対に忘れませんよ。

仮に、修学旅行もそうですけれども、1週間前の火曜日の2時間目の授業は何だったと言ったって覚えてないですよ。だけど、10年たっても修学旅行で台湾に行ったということは忘れません、一生忘れないですよ。そういう経験をさせてあげるのがいいと思って

いるんですが、向こうも日本に行かせたいと、しかも静岡県に。こちらはまだ余り行って  
いないので、掛川の高校生の皆様方は全員パスポートを持って行ってください。

それは全員行かなくても、分けて行ってもいいんじゃないですか。飛行機の都合もあり  
ますから、週に今4日ですね、サービスしています。それを向こうの航空会社の社長さん、  
中華航空といいますけれども、毎日にしたいとおっしゃっているんですね。ですからそれ  
は向こうから来る人が4倍、うちから行く人は1しか行かないので、バランスが欠いてい  
るということで、私たちが行かなくちゃならない。

その中でさっきの3つのもう1つはサイクリングなんですよ。そのサイクリングは九州  
一周といいますか、台湾一周で、これは通常ですと9泊10日かかります。それで静岡県は  
実は向こうに大使を送っているんですよ。

彼はこの間日月潭を泳ぎました。ちょうど前の馬英九という総統がおやめになった後だ  
ったので、一緒に泳いで、9分差で勝ったんですよ。新聞に載りました。次に彼が挑戦し  
ようと思っているのがサイクリングなんですよ。先ほどおっしゃったように、サイクリン  
グにもものすごい熱心なわけです。

ですから、サイクリングについて今、発言者6さんが中心でやっていらっしゃいますの  
で、サイクリングステーションをどうするかということで、警察部長に言うておきます。  
交番というのは、もう訳さなくていいんですね、ポリスステーションと言わないですよ、  
コーバンで済むんですね。そのまま通じるわけです。スシとかテンプラ、テンプラは元々  
ポルトガル語です、ともかくそのまま通じる日本語ですよ。そういうことで交番ですから、  
KOBANと書くわけですから、そこでちょっとしたことをやればいいと。

それから鉄道に自転車で来て載せるというのは、当たり前になっている国とそうでない  
国がありますが、ぜひできるところから始めましょう。それから旅館とかホテルで自転  
車を置く場所というのがあるだけで、相当たくさんサイクリストがいますので、その方  
たちにとってはすごく便利になります。彼らは全部自転車で来るんじゃないですね。ある  
ところまでは自転車をかついできて、組み立てて、しかるべくサイクリングを楽しんで、  
また畳んで泊まって帰られると、こういうわけです。

そういうわけでサイクリングというのはこれから健康にもいい、CO<sub>2</sub>は出さない、そし  
てまた先ほどおっしゃったような地元のことを知ることにも役に立つということですので、  
サイクリングのメッカにしようというふうに思っております、伊豆ではやりますけれど  
も、何も伊豆のためだけにやるわけではありません。オリンピックそれ自体が日本のために

もなる、世界のためにもなると同じように、サイクリングをたまたま静岡県で初めてオリンピックゲームとしてやっていただけるということなので、これを契機にして静岡県全体をサイクリングのメッカにしたいと思っております。

ちなみにそういうニュースが、ぱっと伝わった途端にイタリアの人たち、サイクリングとても好きなんですね。日本に来たいということで、フリウリ・ヴェネチア・ジュリア州という名前の州がありまして、そこからラブコールがありまして、調印をしたいとおっしゃる。そして何のための調印かという、あそこにゾンコランという山があると。それはもう22度のすごい傾斜で、ジロ・デ・イタリアというものすごいレースがあると。ゾンコランの山に登るのは富士山に登るに匹敵するということで、ゾンコラン・富士山何とかクラシックと勝手に名前をつけて、それでやっていらっしゃるんですよ。

だから、もう本当に富士山の一部に登りたい、伊豆半島はイタリア半島みたいだからそこを見たいとかとおっしゃってこられて、それで協定を結ぶために行きましたよ。そういうところからラブコールが来ているんですよ、静岡県に。もうびっくりしました。

だから思いもよらぬところから、これ全部富士山効果だと思います。何しろ44件、1か月に1つですから、ですから、このサイクリングを1つの突破口にし、台湾を突破口にして、しかもつま恋は実はインドにまで窓を開けているということでありまして、ここに来ると健康で、そして何と申しますか幸せになると、そして、それは何と申しても掛川の人が国際化することが大事で、それは子どものときにさせてあげるのがいいので、10代の多感なときにさせてあげるのが一番いいので、ですから10代のときにとりあえず安全なところ、親日的なところ、お金が余り掛からないところ、しかし外国であるところ、そういうところに青年たちを送っていくというふうな国際化の運動、つまり我々の世代ではできなかったことをこれからの世代の子どもたちにプレゼントしていくというその出発点は報徳の精神に合うというふうに思いました。両氏ともありがとうございました。

#### 【傍聴者1】

岩滑から参りました傍聴者1です。今日はあえて平太知事と呼ばさせていただきます。今お話を聞いていますと、すばらしいふじのくにです。いろいろな方々の意見を聞いてもすばらしい。このすばらしい国にふさわしい、身近クールで、非常にすばらしい平太知事かと私は思っております。

しかも、お話を聞いておりますとすばらしいふじのくにですが、お茶にしても、生活にしても、ただ1つ心配なのは地震の問題でありますね。その地震の震源地に立っております

す原発はどうなるのか。もうあれがどーんといけば全部消えてしまいます。福島のNHKの放送を見ておりましたら、米作りで一生懸命にやった人が、福島の米だと言ったら売れなかった、悲観して自殺しましたね、夫婦で。あんなことになったらいけません。ふじのくにはいつまでも輝いてきれいでクールな知事のもとにどんどんよくなっていたきたい、このことをお願いしたい。

#### 【傍聴者2】

市内小貫の傍聴者2と申します。1つ提案です。先ほど発言者5さんが言われた農業のことや、それから発言者6さんが言われた里山景観も、これみんな維持がものすごく大変です。私も家が農業を多少やっているのですが、草刈りがどれほど大変かというのは骨身にしてみてもわかっています。

今後この農業や里山の景観や、いろんなことを維持していくために私はぜひ提案したいのは、子どもたちの足腰を強くしたい。それはスポーツとか、いわゆる体力向上と言われているそれだけではなくて、日常の姿勢、ご飯を食べるときにきちんとした姿勢で食べてない人がものすごく多いです。うちの主人も、ちょっと私が油断すると、後ろにもたれたり、ひじをついたり、片手でご飯を食べたり、これは腰に力が入りません。こういうことを小さいときから習慣づけていると、年をとったら大変なことになります。

ですから、私は医療費の削減とか、いろんなすべてのことをやるためには足と腰が基本で、今いるお年寄りはまだ小さいときに和式トイレにしゃがんで、鍬を持って耕して、まだよかったです。でも今の人たちはみんな洋式トイレです。そういうこと1つとっても、子どもたちの基本的な体というのが私はすごく不安で、日本人の力士が出ないのも当たり前だと思っています、日常生活が便利になり過ぎているので。

ですから、静岡県はぜひとも子どもたちのうちから日常で足腰をきちんとつくれる、きちんとした体をつくれるような教育をぜひ心掛けていただきたいと知事にも、市長にもぜひこれを提案いたします。そうするときっとよそから人を呼び込むにも私は絶対いいと思うんですね、子育てするにも。以上、提案です。

#### 【傍聴者3】

簡単に言いますので。1つ目は東大谷の産業廃棄物処理場、これ反対運動が起こっているんです。これね、あんな里山が美しいと言っていましたけれども、東大谷に巨大な産業廃棄物処理場ができると、大淵地区、大変汚れるんじゃないかと心配しているんですよ。掛川市長とか副市長も絶対つくらせないように反対していただきたいんですが、これをお

願います。

【川勝知事】

どうもありがとうございます。まず傍聴者1さん、ありがとうございました。原発は動きません、大丈夫です。ただ廃炉にするにしても、永久停止にするにしても、あそこに9,000体近く使用済みの核燃料が保管されているんですね。これは崩壊熱を出しているんですよ。これを冷やすことを止めれば、だんだん、だんだんと熱くなって水素爆発や何かにつながるんですね。ですから、冷やし続けないといけないので、止めたからとか、停止にしたからといって安全じゃないですね。じゃその使用済み核燃料を持っていくところがあるかというところはありません。ですから、彼らは数千億かけて安全対策をやっていますから、動く気配はないですね。

仮に動かしたとするじゃないですか。そうするとそれを定期点検と言うはずですよ。あと2年後に定期点検をして、それで動かすと。定期点検というのは何かというと、13か月ごとに行われる燃料棒の入れ替えのことが定期点検という言葉なんです。これは非常にまやかしいですね。燃料棒の入れ替えなんですよ。じゃ入れ替えるということは、今使っているやつを今度また使用済み核燃料のプールに入れなくちゃいけない。それが1,000体しかありません。大体1回で変えるのに300体ぐらい、そうすると3号機、4号機、5号機と。1号機、2号機はもう廃炉が決まっていますので、そこが仮と一緒に動いたとするでしょう。そうすると13か月後にはそれを取り出して、燃料プールに置かなくちゃいけない。そうするともう置けないですよ。だから動かせないんですよ。動かないんです。

どうしたらいいか。あそこに360万キロワットの高压電線があるでしょう。あれは電力会社なのに電力を供給するための電線になってないで、もっぱらそれ使っているだけでしょう。だったら何か発電したらどうですかと、太陽光でも、ほかのものでもね。

ともあれ、今そういう状態になっているということを御存じいただくと、動かせないということで、そしてまた今までは4市だったですけども、31キロ以内になっていますので、そこと協定を結ぶことに中部電力の方たちは前向きですね。

静岡県の防災・原子力学術会議というのがありまして、情報公開の中でやり取りしていますから、ですから私は今のところ中部電力さんが株主のためにあれは将来活用したいというふうに言われるべき筋のことはそれとしてわかりますけれども、客観的に見ると動かないので、よく勉強していただいて、今度オフサイトセンターというのが去年からできています、空港のところ。あそこに行ってください、そこで情報を手に入れておくと、

それはもう向こうが何を言われても、同じ情報を持っていると同じ判断が出てきます。

現状分析をしっかりしていくと、おのずと判断が出てきますので、余り政治的に対立をあおる必要はないと。今四十数基ある中で一番安全対策を講じているのが浜岡だというふうに私は思っております。

それから傍聴者2さん、姿勢を正せということで、すごく大事なことですよ。子どものときに姿勢を正しくしなさい、背筋を伸ばしなさい、これは学校でも言っていられると思いますが、これそうしましょう、姿勢を正しくすると。姿の勢いじゃないですか、姿勢という字は。ですから、それが心持ちもよくするし、人が見えてもきれいだし、そして足腰を鍛えないとこんなふうになるから、足腰を鍛えるということですね。足腰を鍛えるのにどこが一番いいか。

そうですね、ここは、雪は富士山にしか降ってない。南アルプスしか降らない。いつでも外に出られるので足腰を鍛えるために姿勢を正しくして歩きましょうと、あるいはサイクリングをしましょうということで、いろいろと足腰を鍛える方法はあると思いますが、子どもころから足腰を鍛え、足腰を鍛えるだけでなく、スポーツ選手の中にも、中には選手としては格好よくても、姿勢の悪い人がいますよね。それを改めるという合い言葉を何か上手につくって、今の傍聴者2さんのメッセージは、私は自分に言われたと思ったぐらいで、姿勢を正しく、そしてご飯を食べるときも両手をちゃんと使って、片手で食べたり、ひじついたりしないようにというふうにお願いしましょう。

それから、産業廃棄物、実は掛川は10万人以上の市の中で、ごみの一人当たり1日で出す量が一番低いですよ。だから環境意識というんでしょうか、これ非常にレベル高いんですよ。ですから産業廃棄物をどういうふうになっているのか知りませんが、ちょっと調べてさせていただいて、どういう事情になっているのか、ちょっと存じ上げませんでした。

そういうことで御意見拝聴したということでございますが、十分な答えにならなかったかもしれませんが、ちょうど3時半といただいた時間になりましたので、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。